

大田区立羽田小学校 経営計画



令和7年4月
大田区立羽田小学校
校長 渡部 理恵子

コミュニティ・スクール ウェルビーイング・チーム HANEDA



**開校122周年 地域とともにある学校、学校を拠点としたまちづくり
～羽田の古（いにしえ）と未来、新たなステージへ～**

1 経営方針

予測困難な時代において、「令和の日本型学校教育」として、これからの未来社会を生き抜く子どもたちを育てるために学校はどうあるべきか、学校は何のためにあるのかを問い直す。

- (1) こどもの意欲や資質・能力の育成を図り、創造性と可能性のある学校づくりを目指す。
・「学びの保障」「楽しさの保障」を行い、主体的に取り組む子どもを育成する。
- (2) コミュニティ・スクール機能の充実を図り、学校・家庭・地域がともにある学校づくりを目指す。
・信頼と連携でつくる「チーム HANEDA」のチーム力を高め、ウェルビーイング（心身ともに健康で幸せな状態）な学校をつくる。
- (3) 全教職員が、健康で幸せに働く、笑顔あふれる豊かな教育活動を展開する。
・ライフワークバランスを考えた働き方の推進、心理的安全性の高い職場づくり

2 学校教育目標

「いのちをだいじにする子」

「こころをだいじにする子」

「まなび(べんきょう)をだいじにする子」

「からだをだいじにする子」

3 目指す学校像

◎子どもも大人も「学び合い、支え合い、高め合える」学校
～幸せに生きることができる力を高める学校～

- 子どもが、自他のよさを実感できる学校
- 教職員が、こどもの成長を目指していく学校
- 保護者・地域が、こどものよりよい成長をともに考え、ともに育んでいく学校

4 目指す児童像

「自分も相手も大切にすることができる子」

「自ら考え、伝え合うことができる子」

「自分の心身に関心をもち、高めることができる子」

5 目標実現のための主な方策

(「おおた教育ビジョン」2024(令和6年度)～2028(令和10年度)に基づいた課題の明確化)

(1) 未来を創造的に生きる力の育成

【令和6・7年度 大田区教育委員会 ICT 教育研究推進校】

【令和6・7年度 東京都教育委員会 人権尊重教育推進校】

○問題を解決する力、新たな価値を創造する力の育成

○主体的に考え、行動し、協働していく力の育成

○情報活用能力の育成

① STEAM 教育、探究の教科等横断的な学び

・大学や企業と協働した「STEAM 教育」の推進 新たな価値を創造する力の育成

・教科などでの学習を実社会での問題発見・解決に生かしていくための教科等横断的な教育

・新設教科「おおたの未来づくり」に関する取組を全学年で実践

令和6年度の研究実践校としての成果と課題を生かす

② 主体的に考え、行動し、協働していく力の育成

・「主体的・対話的で深い学び」の実現、探究する力を育てる問題解決的な学習の推進

・読む力、想像する力、考える力を育成するための機会確保(読書 音読 新聞活用 NIE タイム)

・キャリア教育で育てる 4 つの能力の明確にした特別活動、総合的な学習の時間等の取組

・学校行事を核とした活動を通して、児童が目標や見通しをもち取組状況を振り返るキャリアパスポート

③ 情報活用能力の育成

・ICT 機器を活用した授業改善及びプログラミング教育の推進及び情報モラルの習得

・情報収集・整理・分類・まとめ・表現に主体的に利活用

・個別最適な学びのため、特性に応じ、自分で選んだ方法で、個々のペースでの活用法

デジタルとアナログのよさを踏まえた上での、効果的な利活用。選択肢を増やし、自分で決める。

・協働的な学びのため、共有・コミュニケーションツールとしての活用。人から学び、人に伝え、情報を共有し、練り上げ、創る。

(2) 世界とつながる国際都市おおたを担う人材の育成

○英語力の向上とコミュニケーション能力の育成

○郷土の伝統・文化の尊重と、異なる文化・価値を理解しともに生きる態度の育成

○持続可能な社会を形成していく態度の育成

① 外国語担当教員が中心となって外国語教育指導員を活用し効果的な指導方法を探る国際理解教育の推進

・5・6年生の外国語科、3・4年生の外国語活動、1・2年生の大田区外国語活動の確実な実施

② 多様性を尊重しながら、ともに生きるこどもの育成

・生命の尊さ、自他の人権を尊重する人権尊重教育の推進

【令和6・7年度 東京都教育委員会人権尊重教育推進校】

・東京都の「人権尊重プログラム」を活用した授業実践及び日常的な取組の充実

・地域への愛着や誇りを育む教育

・羽田の伝統を継承、自分ごととして進化させる羽田の祭り学習と歴史学習

・児童一人一人の社会的・職業的自立の基盤となる資質・能力を育てるキャリア教育の推進

(3) 一人ひとりが個性と能力を発揮するための基礎となる力の育成

○豊かな心の育成

○誰一人取り残さない、確かな学力の育成

○健やかな体の育成

○乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育の充実

① 特別の教科 道徳の充実 「考える道徳」「議論する道徳」の授業改善

・道徳授業公開講座は「生命尊重」をテーマに行い、家庭・地域が一体となった「心の教育」を推進

② 児童の人間形成、社会参画、自己実現を図る特別活動の充実

・楽しい学校生活をつくらうとする自主性、自発性を伸ばす当番、係、クラブ、委員会活動。

・同学年・異学年の交流、委員会活動やクラブ活動、副籍児童との交流、保育園・幼稚園との交流などの活動をとおして互いのよさに気づき、人とかかわることの楽しさを味わわせ、思いやりの心を育成

・自分たちの学校(学級)は、自分たちでつくるを意識させた自主的、実践的な活動の推進

・3年生から6年生まで、年間2回実施する「WEB QU 調査」を学級経営に活用

③ 日常のあいさつの徹底(語先後礼、相手の目を見て、笑顔で挨拶)

・あいさつ・返事・正しい言葉遣い「羽小は心のオアシスサ」(オ:おはようございます ア:ありがとうございます シ:しつれいします ス:すみません サ:さようなら)

④ 誰一人取り残さない、確かな学力の育成

・各教科・領域を通して基礎的・基本的な内容の定着と思考力・判断力・表現力の育成

・授業改善推進プランを踏まえた「主体的・対話的で深い学び」の実現のための問題解決的な学習の推進

・教科担任制(交換授業)を実施し、授業の質の向上や、児童一人一人の学習内容の理解度・定着度の向上を図る

・計画的な朝学習及び漢字の基礎・基本の反復学習の徹底による大田区漢字検定合格率85%以上の達成

・読む力、想像する力を育成するための機会確保(朝読書 読み聞かせ 音読 新聞活用 NIE タイム)

・ステップ学習、チェックシートを有効活用した、1年生からの算数習熟度別少人数指導。タブレットを活用した「ステップ学習」や「東京ベーシックドリル」等の実施

・読みのつまずきへの早期発見・早期支援の充実を図るために、「まなびポケット」の多層指導モデル MIM を活用

・個人の学習カルテを活用しての三者面談の実施

・3年生以上週一回の放課後補習(羽田っ子塾)

・発達段階に応じたノート指導の徹底(学年で統一)

・自主学習を取り入れた「学年×10分+10分」の家庭学習の工夫・定着

⑤ 日常的に体力・運動能力を高めようとする学校全体としての取組の推進

・基本的な生活習慣の確立

・年間を通した「早寝・早起き・朝ごはん」の定着、主体的な取組の工夫

・駅伝大会を視野に入れた、持久走、長距離の日常的な取組(マラソン月間・体育授業の帯時間)

・運動能力を高めるための外遊び(朝遊びの実施や中休み25分制による外遊び:ワンアップタイム)の実施

・運動に興味をもたせるアスリートとの連携・交流(体育・健康授業地区公開講座)

・学級活動、家庭科、保健体育、給食の指導などを通して、健康増進にかかわる食育の充実を図る。

・小中一貫教育の推進(羽田中との連携)

・幼保小の連携(弁天橋保育園、羽田保育園等との連携)

(4) 学校力・教師力の向上

○新たな授業モデルの構築と深い学びに向けた教師の授業力の向上

○学校の組織的な運営力の向上

○学校における働き方改革による教育職の魅力の向上

・言語環境を整え、教員の言葉が、教育環境に大きな役割を担っていることを自覚

① 教職員の資質・能力向上 学び続ける教員 校内研究・校内研修・OJT の充実

・OJT、Off-JT を包括した教員の自己研鑽システムの構築

・チーム学校としての組織を活用したプロ意識を高めるための取組

- ・褒めて認める、自己肯定感の向上を目指す、心理的安全性のある学級経営
- ・「関わり合い、認め合い、未来を拓く子供の育成」を研究主題に校内研究に取り組む。大田区の ICT 教育推進校、東京都教育委員会 人権尊重教育推進校の2つの指定を受けた研究、研究発表会を行う。
- ・STEAM 教育、探究学習、人権尊重教育に関わる研修会、ワークショップ、フィールドワーク等を実施。
- ・「いじめ防止」「不登校対策」「特別支援教育」「人権教育」「特別の教科 道徳」「アレルギー対応」などの研修会を行い、共通理解のもと実践に活かす
- ・都や区の研修受講者による還元研修を実施する
- ・個々の経営参画意識の高揚、経営会議の開催
- ・柔軟な視点に立った分掌編成、学級編成(単年度改編)

② 授業力の向上

- ・個々の教員の専門性やよさを生かした授業実践を重ねる
- ・好奇心を刺激し、発見の喜び、驚きや感動を生む授業、「おもしろい」「なぜ」「分かった」「できた」「もっとしたい」などのつぶやきがある授業を創造する
- ・各教科、学級活動、道徳科、学校行事などをカリキュラム・マネジメントした年間計画を作成し計画的に実践。
- ・週案を活用した見通しをもった指導計画(本時のねらい・配慮事項の明記、意図的・計画的な指導の実施)

③ 働き方改革の達成を目指した校務内容の精選及び自己管理能力の向上

- ・副校長アシスタント、教員支援員、学校特別支援員、登校支援員等、人材活用する。
- ・C4th「会議室」「掲示板」を活用し、ペーパーレス、会議の精選を行っていく。
- ・校務見直し、組織効率化による校務軽減、前年度踏襲ではない提案制度、ライフワークバランスを考えた働き方、定時退勤の自己設定
- ・教職員自らが、法令に従うのはもちろん、言語、服装、行動など、教職員としての自覚もち、常に笑顔で人と接することができる心と体の健康に努める

(5) 自分らしくいきいきと生きるための学びを支援

○特別支援教育の充実

○いじめ対応、不登校への支援の徹底

○相談・支援機能の充実

① 特別支援教育の充実

- ・特別支援教室(サポートルーム)の拠点校、ABA(応用行動分析)による支援で、特性に配慮した教育、一人一人に向き合う教育の推進
- ・サポートルームの教員と学級担任が協働することにより、こどもが抱える困難さを改善し、学習能力や集団適応能力の伸長を図る
- ・校内委員会を月に 1 回開催し、配慮を要する児童の共通理解を図る
- ・教育相談的手法を生かし、こども一人一人に寄り添う適切かつ迅速な支援を行うことで、こどもの不安や悩みを和らげる
- ・特別支援教育コーディネーターやスクールカウンセラーを中心に、就学支援シートを活用した個別指導計画の作成・実施を着実に進める

② 不登校対策・いじめ防止・自殺防止教育の充実

- ・児童や保護者のメンタルサポートとして、スクールカウンセラーの相談活動を充実
- ・登校支援員を配置し、一人一人の児童にあった登校しやすい環境をつくる
- ・学校特別支援員、学校特別補助員を効果的に配置する。
- ・道徳、学級活動などで、「心の教育」を実施する
- ・6 年生には「SOS の出し方について」を指導する
- ・「子どもの心サポート月間」(6 月と 11 月)には学校生活調査、生活アンケートを学期ごとに実施し、いじめや不登校など、心の悩みへの早期発見・対応をする。相談ポストを校長室前に常時設置する。
- ・「羽田小学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの未然防止に向けて組織としての対応をする
- ・SC や関連諸機関と連絡・情報交換及び保護者との連携指導

- ・家庭との連携を深める教育相談の充実
- ・学校に相談しやすい環境をつくり、家庭との連携を深め、児童理解に生かす
- ・傾聴を大切にした相談体制
- ・個別相談によるいじめゼロ、不登校ゼロ
- ・いじめは、いつでもどこでも起こりうるものと認識し、いじめの見逃しゼロ、早期発見・早期対応を徹底する。
- ・スクールソーシャルワーカーや適応教室つばさ、子ども家庭支援センターとの連携を図り、不登校の未然防止及び解決に向けての取り組みを充実させる
- ・虐待、暴力などの情報は、子供家庭支援センター、児童相談所などに報告する

(6) 柔軟で創造的な学習空間と安全・安心な教育環境

○魅力ある学校施設の整備

○可能性を引き出す学習環境の充実

○安全・安心の確保

① 学校のきまりについて継続した指導

- ・日常より、学校のきまり「羽小スタンダード」を全教員が共通理解し、児童の規範意識を育てる
- ・自分自身を守るための子どもに考えさせる安全指導及び安全点検の徹底
- ・生活指導部を中心とした問題行動への迅速な対応
- ・どんなときも「話を聞く姿勢」をきちんと身に付け、落ち着いて行動することを基本に、事故・けがを未然に防ぐ
- ・災害時の安全な避難行動にも活かしていく

② 事故・怪我の未然防止

- ・施設・設備の安全点検には、日常から細心の注意をはらう
- ・事後対応は、素早く、誠意をもって行う
- ・「報告・連絡・相談」を習慣化
- ・首から上のけがは、必ず保護者に連絡するとともに、誠意をもった対応で、児童や保護者が安心できるようにする(初期対応を丁寧に)
- ・緊急時に備え、緊急事態(事故、けが、食物アレルギー、自然災害等)を想定したマニュアルを整備し、全職員が活用し、いざという時に、慌てず、冷静に、判断・行動ができるようにしておく
- ・サービス事故防止研修及び人権尊重に基づく児童・保護者対応研修の毎月実施

(7) 学校・家庭・地域の連携・協働による地域コミュニティの核としての学校づくり

○コミュニティ・スクールの推進

○家庭と連携した安全・安心な環境づくり

○家庭教育への支援

① 学校の発信力を生かした「開かれた学校」の取組の充実

- ・毎学期、土曜日を含む学校公開日を設定し、日頃の学習活動を家庭・地域に示し、教育活動への理解を促すとともに、学校評価に役立てる。学校公開実施後にはアンケートをとり、授業改善に生かす
- ・PTA活動を抜本的に見直し、できる人ができる時に活動できる体制づくり
- ・基礎・基本を確実に身に付けさせるための学習環境及び家庭学習習慣の確立
- ・保護者向け情報モラル研修

② 学校運営協議会と地域学校協働本部「はねサポ」

- ・年間6回、学校運営協議会を開催。育てたい力、健全育成の推進、学校評価関係者評価などを行い、協議したことを学校の教育活動に確実に活かす
- ・年間2回程度の学校運営協議会委員と11町会長との連携のための交流会・懇談会を開催する。
- ・地域人材、地域の伝統を大切に活動・地域の教育資源の活用
- ・「スクールサポートHANEDA」(はねサポ)・PTA等との効果的な連携による地域資源の活用
- ・羽田空港、商店会、町会、羽田青年会連合との連携

- ・「放課後子ども教室」と協力した、児童の放課後の生活の充実
 - ・祭り学習など、地域の特色である羽田の文化伝統にふれる機会を設け、体験的な活動をするをとおして、地域を愛する児童を育てる
 - ・地域の特色ある場所、お店の見学や、地域の行事への参加をとおして、地域の人とのかかわりや、地域の歴史や文化を知るとともに、地域の一員としての自覚を育てる
- ③ 自然災害対策
- ・学校防災拠点としての役割、学校防災拠点本部との連携、活用
 - ・地域町会と連携して、「災害に立ち向かう学校」としての役割を担っていく（備蓄倉庫の整備、避難訓練への参加など）
 - ・児童への防災指導、ボランティア精神を養う指導を行い、将来、地域に貢献できる児童を育てる
 - ・地域連携防災訓練 全児童・保護者・11町会、関係諸機関とともに、10月11日「羽田まちぐるみ BO 祭～羽小防災の日」の設定
 - ・地域と連携した安全・安心な環境づくり、交通安全運動等、まちぐるみでこどもを見守る「見守り藤兵衛プロジェクト」
- ④ 魅力ある教育活動の創意と積極的な情報発信
- ・学校ホームページの内容やブログの充実
 - ・学校掲示板、学校だよりの活用

(8) 生涯学び続ける環境

- 図書館機能の充実
- 多様な学習機会の提供
- 文化財保護
- ・「朝読書」や翼の会による「読み聞かせ」、「読書週間」を通じた読書活動
- ・読書学習司書を活用し、読書環境の整備、並行読書の実施、羽田図書館からの団体貸し出しの継続
- ・学校図書室を活用し、探究学習と連携した読書活動の授業を充実
- ・羽田のふるさと絵本の活用
- ・地域と羽田小学校の歴史、旧羽田旭小学校の歴史を刻む展示室の充実